

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(102)、(135)」

2. 日時：令和3年3月3日（水）13時30分～15時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、
海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、菅谷技術調査官、
磯田係員、松末技術参与

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員
中川原子力土建部長 他11名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・浜岡原子力発電所 敷地の地質・地質構造（コメント回答）
- ・浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト

<<本年2月3日に受取済み>>

- ・浜岡原子力発電所 敷地の地質・地質構造（コメント回答）補足説明資料
- ・浜岡原子力発電所 敷地の地質・地質構造（コメント回答）データ集

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	はい。規制庁のスガヤです。お疲れ様です。それでこれからですね、浜岡原子力発電所A敷地の地質・地質構造のコメント回答のヒアリングのほう海水したいと思います。よろしくお願いします。
0:00:20	中部電力アマンでございませう。よろしくお願ひいたします。
0:00:25	本日は、前回 2 月 3 日の日に御説明させていただきました敷地の地質・地質構造のコメント回答資料についてちよつと御確認いただいた中で、よりわかりやすさの観点等で資料のほうを修正して参りましたので、内容のほうを御説明させていただきますたいと思ひます。
0:00:44	説明時間およそ 30 分強ぐらいで丁寧に説明させていただきますたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。
0:00:54	自分でこのモリモトですよろしくお願ひいたします。
0:00:58	まずスピーチITSのコメント回答資料の前に本日提出させていただきました指摘事項リストのほうですけれども、
0:01:07	2 月 10 日の津波のヒアリングでスガヤさんのほうから津浪の指摘事項の記載漏れがあるという御指摘いただいておりました、この堆積物評価関係のところと地震以外の要員関係の指摘事項の記載が抜けておりましたので、
0:01:23	ほかリストのほうに追加をしております。また後でこちらのほう確認いただければと思ひますのでよろしくお願ひいたします。
0:01:32	それでは引き継が実質の資料の修正、説明させていただきます。本日の資料ですけれども、前回から変更があるのは、本編資料、
0:01:42	右肩の番号が一番し 192。
0:01:46	今回ある 02 としておりましたが、本編資料のみでございませう。
0:01:51	変更点を中心に御説明させていただきます。
0:01:54	まず最初 39 ページからお願ひいたします。
0:02:02	1 断層系の活動性評価という所ですけれども、その冒頭部分からになります。次のページ、30 ページをお願ひいたします。
0:02:14	いつも総研評価方針としてこちらに示しております。ここから 3 ページにわたります、1 断層系は震源として考慮する活断層、いわゆる震源断層に該当しないというところなので、
0:02:29	重要施設直下の断層を評価対象とします。
0:02:32	評価にあたっては上載地層のある敷地外の断層位置 9 断層ですけれどもこれもしっかり調べますという説明をしております。
0:02:42	前回ヒアでは 1 断層が震源断層に該当しないとする根拠について、ご指摘をいただいておりました。

0:02:52	前回はですね 40 ページに記載した周辺活断層評価と、あと 41 ページにウワ 一箱で書いております。
0:03:03	敷地内地質の一章から 3 章の内容、具体的には文献付け、それから地下構 造調査になりますけれども、これらを根拠として敷地には震源断層がないので H断層系も震源断層には該当しないと。
0:03:19	おりました。ただ弊社としては、この敷地内の詳細な深部構造のデータを持っ ておりますし、それを考慮した上でもH断層系が震源断層でないということを確認 しておりますので、そのあたり、明確になるように、
0:03:34	根拠として 41 ページの下はこの部分。
0:03:38	こちらを追加しました。下方向ですけれどもH断層系の深部への連続性として おります。
0:03:47	括弧書きで、
0:03:49	タイトルの括弧書きのところにですね詳細は 245 ページ参照としています。内 容ですね 245 ページのほうで御説明させていただきます。
0:04:01	245 ページをご覧ください。
0:04:05	こちらですけれどもスライドの位置としてはですね。
0:04:08	このページの上の二つの箱書きの内容 4. 一章の内容と 4.3 章の内容を一通 り説明した後に持ってきています。
0:04:18	4 点書、いつ遊びの分布形態ですけれどもこれは地表付近で一番想定がどう いう分布形態をしているのかを調査結果で示した。
0:04:29	ものです。
0:04:30	4.3、敷地深部の地質構造、こちらは深部の地層の後方回転ですとか、鍵層の 連続性深部の断層性状を調べた結果でございます。
0:04:43	コーダダイジェストで関係箇所を抜粋して載せておりますが、これらの結果か らいえることとしてですね、下の青の箱書きにH断層系の深部への連続性とし て、
0:04:56	書いております。
0:04:58	内容ですけれども、時断層系というのは、いずれの断層表層付近においては 20m程度の落差を持つ正断層群ですけれども、
0:05:07	分布域の違う付近から深部に書きでの構造を見ますと、
0:05:12	浅部ではH断層系との関連が考えられる構造が認めれるのに認められるのに 対しまして、深部では連続性の良い反射面というのが確認されて、関連するよ うな構造というのはないというものです。
0:05:27	またH断層系の分布域の地層というのは、浅部で後方回転しておりまして、そ の回転というのは深く深いところに行くに従って収束しております。

0:05:39	さらに一部の断層の延伸部の地層というのは大きい変位を受けることなく連続しておりまして、顕著な短縮もなく、同性状の規模の断層は深いところにもないということは確認しております。
0:05:52	ですので、太い矢印の先ですけれどもH断層系というのは、浅部と同程度以上の規模で深部に連続していくものではないと考えております。
0:06:03	この箱の内容が先ほどの41ページの下発行の部分に書いてあります。
0:06:11	また頭のですねと41ページのほう戻っていただいて、
0:06:18	事項に続くということで42ページのほうに続きますが、
0:06:24	2ページの黄色の箱の部分。
0:06:28	周辺活断層評価、それから文献付け地下構造調査。
0:06:33	ここには震源断層を示唆する構造がないということは確認してます。
0:06:39	これと先ほどの245ページで御説明した敷地の中にはいつなされているのはありますけれども浅部と同程度以上の規模で深部に続かないこれ踏まえると、1断層系は地下深部の地震発生層から地表付近まで破壊し、
0:06:56	地震動による施設への影響を検討する必要があるような震源として考慮する活断層には該当しないと考えております。
0:07:05	前回からの変更点として、敷地内ツアー総研はしっかり調べた上で1断層系は震源断層ではないと。
0:07:13	していることが明確になるような見直しを行っております。
0:07:17	下の緑箱の記載内容はほぼ前回のままでございます。震源断層ではないので、評価すべきは、重要施設直下の断層だということとただそれぞれには上載層がないので、上載層のある断層もしっかり調べてどれでも、
0:07:33	活動性評価が代表できるんだということを示した上で上載地層の年代で評価しますということを書いています。
0:07:42	以上が冒頭部分の変更です。
0:07:46	次46ページから中身のほうに入って行って、分布形態の調査結果でございます。
0:07:56	こちらは前回ヒアリングでH8断層っていう重要度直下の断層と、いつ9断層の間にある。
0:08:05	断層がありますが、その形態どうやってみているのかというご質問いただいておりますので、その際に口頭で回答しましたがけれども資料のほうに追記します。場所がですね、64ページ。
0:08:22	図面がありましてその右、下のほうに星印の術中がきということで記載してあります。
0:08:30	家理想の落差と話は記録の不連続面から一応推定しているとそこで南傾斜の

0:08:37	断層だで落差も把握しているというものでございます。
0:08:42	続いての変更箇所を 88 ページまで飛んでいただきまして、
0:08:52	一通り僕形態の調査結果並べてですねその調査のまとめをここに書いております。
0:08:58	このまとめの知財にあたっては、家庭ですとか推定そういった所排除して観察事実のみ書くことというご指摘をいただいております。
0:09:08	今回まとめが来まとめなんですね箇条書きで 1A から 1 市頭になってますけれども、断層日本語と見た上で事実のみを書くように見直しております。
0:09:20	この後 4.2。
0:09:22	省において H 断層系の性状、
0:09:25	それから 4.3、深部構造の調査結果を説明しておりますけれども、まとめが記載にあたっては同様の修正を行っております。
0:09:35	前段損益を通じて確認できることを書いているということと一部の断層しか確認できてない内容については確認対象がどの断層のわかるように変えたと。
0:09:46	いうものでございます。
0:09:49	次、経済 1 ページから性状についての調査結果を説明するスライドになりますが、
0:09:58	92 ページに概要を示しております。
0:10:03	調査民営としては、上の黄色い箱書きにあります(1)から(3)、
0:10:08	路頭コアの観察、ブロック試料薄片の観察、試料分析をやっています。
0:10:15	これらの調査結果からからいえることがまとめというのを 195 ページ。
0:10:22	ね、記載しております。
0:10:25	ここでも観察事実からいえることのみを書くように見直しをしております。
0:10:32	ここ文書で書いておりますが、スケッチですとか写真も交えて代表例を示して欲しいというご出席を
0:10:39	カイダさんだったかと思いますがいただいておりますので、196 ページ、197 ページ中身で説明していることの再掲になりますけれども、A3 断層例として示しておりますこの 2 枚を追加しました。
0:10:58	またですね 195 ページのまとめのところ文書で言っているような
0:11:04	ところですがけれどもそれぞれ何の調査結果に基づいているのかと。
0:11:09	何か少しわかりにくいかなと。
0:11:12	考えまして、例えば 195 ページの 2D と頭についている部分再利用物質は母岩を構成する砂と泥が混合したものである。
0:11:23	これは名の観察記録から言っているのか、どの試料分析から言っているのかが少し

0:11:29	見えにくい。調査結果同士の軽重軽い重いというのがわかりにくいという御指摘もありましたので、
0:11:38	その辺を整理したスライドを 198 ページのほうに今回追加させていただきました。
0:11:49	そうは一番左の列に先ほどの 195 ページまとめのところに書いていた検討結果民営化にIと書いてます。メーカーに合いというのを記載してですね。
0:12:03	その一つ横の列にそのことを確認した調査の内容を書いて、
0:12:09	おります。
0:12:10	上の箱書きの
0:12:13	内容 2 ポツ目になりますけれども、この民営化に合いというのはいずれの検討結果についても、すべての断層で実施しております。
0:12:22	路頭もしくはコアの観察、ブロック試料薄片の観察により、その内容確認しております。
0:12:30	3 ポツになりますが、そのうち定量的に、それから別の観点で検討が可能と考えられるものについては一部またすべての断層で実施した試料分析により検討結果の妥当性を補足的に。
0:12:44	確認しております。
0:12:46	この一番から想定どんな断層かというのをサポートの中の括弧書きの中に書いておりますけれども、比較的多くの露頭が確認されて十分な試料採取が可能であったH3 から 1 号H系断層中心としたものでございます。
0:13:03	この表の見方ですけれども先ほど、例えばということで、2 次、再物質は母岩を構成する砂と泥が混合したものだ。
0:13:14	いうのは何から言ってるのかといいますと、
0:13:18	薄片観察結果から、これを言っていて、補足的に実施した灰色で塗っている部分、
0:13:26	跨線仮設分析粒度分析といった試料分析からも、
0:13:30	その妥当性を確認しているというものでございます。
0:13:34	ということで性状に関しては、調査結果とまとめの地裁の関係が複雑
0:13:40	でしたけれども、いずれの検討結果も全断層で実施している露頭薄片などの観察結果に重きを置いて導いたものだというのが、
0:13:51	見えるようにしました。
0:13:54	こういった形で整理して少しメリハリっていうか形状をつけさせていただきました。
0:14:02	次策定づけページから敷地深部の地質構造についてのスライドになります。
0:14:10	づく 44 ページのまとめまで飛んでいただきまして、

0:14:16	こちらが御説明しますが、
0:14:19	ここもまとめの記載観察事実を淡々等ということで記載は見直しを行っております。
0:14:27	例えばシートの深部で地層の鍵層が変容削り連続していると説明している部分、
0:14:34	下のほうの 3Eと。
0:14:38	いる部分ですけども、
0:14:40	変異がないなどの断層と同泥層の延伸部に当たるのかというのを具体的に書いております。従来だと敷地全体のような記載になっていたので、
0:14:51	A3 から 1-6 断層の延伸部を見た結果だというのがわかるようにしました。ソースターム 3F。
0:14:58	断層性状を確認したところについても同じような修正を行っております。
0:15:06	ここもてばですね一通り浅部構造まで分布形態性状深部構造調査結果を示したスライドになります。
0:15:18	次に 145 ページは先ほど冒頭で御説明しましたH断層系の深部への連続性についてのスライドです。
0:15:26	H断層が震源断層ではないとする根拠の一つをここで示しております。
0:15:37	次に 146 ページの調査結果を俯瞰的、それから網羅的に示したマトリックスになります。全部が断層調査結構池までわかるようにしたものです。
0:15:49	前回からの変更点としては、づらい裁量物質の幅の欄を追加したと、真ん中より少し上の辺りになりますが、
0:15:59	その欄を追加しています。各断層の特徴を示す上では、項目としてあったほうがいいかなと思ひまして、追加しております。
0:16:13	こういった一連の調査結果がありまして、次に 149 ページから評価のほうにコメント回答のほうに、
0:16:21	移っていきますって、4.4H断層の
0:16:26	を分布形態性状等に基づく評価
0:16:30	もう説明スライドに移っていきます。
0:16:34	220 ページに、
0:16:36	概要を示しておりますが、
0:16:39	ここで需要接着から断層とF9 断層の活動性評価はどれでも代表できるんだというところを説明しております。
0:16:47	こういった用紙が水色の箱書きになりますが、検討なりお伝えに変わりはありませんが、文章の表現としてやっていることがわかりやすくなるように多少見直しを行っております。

0:17:02	書いてあるのですけれども、まず断層の分岐データに基づいて保守的な検討と。
0:17:08	一番先の活動間こうとしてますが、それによりまして、H断層系は形成時及び形成をいずれにおいてもすべての断層が一体として活動する機構、メカニズムも持っているというところを御説明しています。
0:17:23	さらに、
0:17:24	正常に基づく微視的な検討として、
0:17:28	縦覧すべきへの各断層の形成時期の関係。それから再活動の有無を検討しておりまして、そこから各断層のケースは同時期で形成をいずれも再活動していないと。
0:17:42	いうことを
0:17:44	示しております説明しております。
0:17:47	以上から各断層の活動時期はすべて同じ時代で、それらの活動性は道南それでも代表できますというところは
0:17:56	この章の中で説明しております。
0:17:59	次の 21 ページ以降はこの流れに沿って(1)の一番先の活動を機構から順番に挙手的な検討と微視的な検討を説明しております。
0:18:11	まず教師的な検討を活動機構をについてですけれども、
0:18:17	内容は、今まで御説明している通りです。どう落差同傾斜。
0:18:24	書いてんを伴うという形態に基づくと一体で動いたんだというところ。
0:18:31	次も踏まえながら説明しております。まとめが 264 ページ。
0:18:38	ね。
0:18:39	やります。
0:18:41	KSN随契性をいずれにおいてもすべての断層が一体として活動する機構ですと、
0:18:49	考えております。
0:18:53	次 265 ページからもう少しミクロに見てやるということで微視的な検討をやってます。
0:19:01	まず(2)ですけれども、断層の性状から、断層系が同時に形成されたものだというところを説明して、
0:19:09	おります。
0:19:10	これタイトル前回はH断層系の形成時期としておりまして、
0:19:15	結論としても、同断層もさわら層が未固結から半固結の時代にできたと。
0:19:22	してはありますが、

0:19:23	ここで活動性評価をやってるような誤解をちょっと招きかねない表現でしたので、タイトルとあと左下の概要欄に書いてある結論の表現を見直しております。あくまで断層同士の形成時期の関係を見ているのであって、
0:19:39	申請時期がいつかというのは、新規性基準の適合性を説明する上では我々またグリーンにしておりますので、結論としても、箱書きの真ん中辺りからですけれども、10mmからいつ9断層、いずれも相良層が堆積が固結していく過程の中の
0:19:55	ある限られた時期に形成された断層である、すなわち平成は同時期であるとしております。
0:20:02	これは何を言ってたのかというと、266 ページ。
0:20:07	先ほどお示したマトリックスに捕獲でして示しております。赤枠の部分断層の性状が全部の断層で似ているからというので、言っておりますが、ただ単にいてというだけではなくて、
0:20:22	次の 267 ページに示しております。
0:20:27	岩盤中の断層性状と
0:20:31	異なるという観点で似ているということはまずを説明しております。
0:20:37	ここでアマノ断層の事例で幾つか挙げてますが、
0:20:41	次の 268 ページ、カイダさんから御褒めいただきおりましたが、
0:20:48	こういったまちの弾塑性上どういったものを具体的に指しているのか事例を示すようにということでしたので、補足説明資料に記載していた内容の抜粋本編資料に入れさせていただきました。
0:21:04	次に 173 ページ。
0:21:08	までちょっと飛びますが、岩盤のが松野断層とは違うと。
0:21:14	出てますけれども、じゃあH断層系に似ている断層の形成される地層というのはどういったものかという観点の検討をここでやってます。
0:21:24	突き上げてやると、一番措置似ている断層というのは、あの堆積直後の未固結から半効率の地層において形成されたものと、
0:21:33	されております。
0:21:35	このスライドもともと上の箱書きの部分しか文字で書いておりませんでした、
0:21:40	表形式で、それぞれの断層が1断層系統の点で似ているのかという観点で整理させていただきました。
0:21:50	ここの断層の事例というのも、次の 245 万 1274 ページ。
0:21:56	カイダさんから御指摘踏まえまして、事例としてスライドも1枚追加しております。
0:22:02	補足に入れてた内容ですけれども、本編のほうに入れております。

0:22:10	次に 175 ページが検討のまとめで上の箱。
0:22:16	一番先の性状から相良層が堆積後固結していく過程の中でどの時期に形成されたんだというのを検討してます。
0:22:25	それで各断層の形成時期の前後関係を見てやったというのですが、真ん中の箱の性状というのは類似していて、岩盤中の断層とは違う。
0:22:35	2 た性状を持つ断層というのは未固結から半固結の地層において形成されたものとされております。
0:22:41	以上より、一番下の箱で位置がポイントに属する断層というのは、いずれも相良層が未固結から半固結
0:22:50	ごめんなさい、いずれも探そうが堆積を固まっていく過程の中で、ある限られた時期に形成されたものだ。
0:22:56	サグチケースは同時期だというふうにしております。
0:23:05	次に 177 ページへまた節が変わりますって正常に基づく微視的な検討をやっているとところの二つ目になります。
0:23:15	そもそもの形成後に各断層再活動しているのかという検討をしております。
0:23:21	前回タイトルがですね、形成後の活動性となってまして、これもここで活動性評価をやっているかのような表現でしたので、タイトルを見直しました。再活動の御あくまで見ているというものです。
0:23:35	218 ページに検討方針を書いておりますが、やってる内容というのは従来のままです。以前、前回御説明させていただいた。
0:23:45	通りです。
0:23:46	再活動していた場合に見られるであろう現象というのがあるのかないのかというのを見えています。
0:23:55	その一環として、284 ページ。
0:23:59	複数回活動した断層に見られる性状があるのかという観点で整理した関係で検討したスライドになります。
0:24:08	まず一番上の箱書き
0:24:10	前回さんからご指摘いただきましたが複数回活動した断層っていうのはどういったことを行っているのか。
0:24:18	の括弧書きで補足しています。
0:24:21	申請時の活動が終了した後ある程度の時間感覚を持ってもう 1 回以上確認活動タナカそのことを我々は言っています。
0:24:32	二つ目の箱書きは知見をまとめたものですが、こちら表形式で書くように整理をしております。
0:24:39	この付け加えると、

0:24:41	黄色の箱書き
0:24:43	複数回活動した断層にはABの性状が見られますとします。
0:24:49	なし装置の層状構造、それからガウジへんこうといった性状が見られると考えられますが、一番下の表 1 のそういうにはそういった性状構造はないと。
0:24:59	いうものです。
0:25:01	次の 285 ページ、ここでも複数回活動した断層の例を補足説明資料から引っ張って説明するスライドを追加しております。
0:25:13	286 ページが検討のまとめになりますが、再活動していた場合に想定される痕跡を探しましたがけれども、先ほどご説明した複数回活動した断層による性状ははじめですねいずれもないと。
0:25:29	有効ことから、真ん中の箱いずれの断層の形成を再活動していないとしています。
0:25:37	次に 187 ページがこの章のまとめです。ここまで教師的徹視的な検討を行った結果をまとめております。
0:25:47	今日的な検討として、
0:25:49	(1)活動機構としては、平成事務形成も一体で活動する機構を持つ。
0:25:56	所と、
0:25:58	(2)各断層の形成時期の関係は同時期だったお子さんさ各断層の再活動はないということを確認しておりますので、
0:26:07	下の箱を起案箱の部分。
0:26:11	1断層系のをまず重要施設直下のATMから 17 で東西地層のあるH系断層、これの形成時期というのは、この同じでありまして、いずれの断層も再活動していないと考えられます。ですので、
0:26:27	各断層の活動時期はすべて
0:26:29	同じ時代、
0:26:31	活動性評価どの断層でも代表できると判断しております。
0:26:36	ということで、緑の箱評価対象であるHm4 から 1-7 断層の活動性はH9 断層の活動性をもって評価しているというものでございます。
0:26:46	まずここまではですね前回会合でのコメントへの回答となりまして変更点を中心に御説明させていただきました。
0:26:55	市をその他の変更箇所ですけれども、この後に 192 ページから
0:27:03	H断層系の形成要因、
0:27:07	無償になります。結論としては形成成因は地すべりと考えられるということを行っている市も、
0:27:16	になりますが、

0:27:18	その中で、294 ページ目に、
0:27:24	時断層系のような並行する正断層群をJPAさせるような構造を幾つか事例として示しております。
0:27:32	この中で、次の 295 ページ。
0:27:37	の表の中の⑩番渥美半島沖の断層を入れるべきという御指摘を
0:27:44	カイダさんからいただいております。ですので 294 の下の列の真ん中、当局へ逆断層の上盤側に生ずる断層群、これは渥美半島沖の断層に該当しますので、
0:27:58	この中に新井ほか 2006 の図、取り交わしております。
0:28:03	追加はしておりますが、
0:28:05	297 ページ。
0:28:08	上の発行、
0:28:11	の内容ですけれどもH断層系との関連は想定される活断層滑動力というのは、引き継い周りは認められませんので、要因としては地すべり型かかろうということでこれから詳細な検討をやっているというものです。これから先の内容は、以前のままになります。
0:28:30	ちょっと簡単に言うだけさらっと御説明させていただきますが、
0:28:35	298 ページから地すべりのつけん文献調査をやってます。
0:28:40	302 ページなんか見ていただくと、滑り面が深部で見られる。
0:28:48	ケースもあるよということで、あの浜岡でも、
0:28:51	出るじゃないかということで調べたところ、308 ページ。
0:28:57	シンプルの鋼板詳細に観察してやると、我々ベリングslipfaultと言っている層面滑りの後のような構造が見られましたので、そういったことを踏まえると、
0:29:08	結論として 316 ページ。
0:29:13	に書いてますけれども、定性要因としては地すべりが地すべりによってできる、できた断層群だと。
0:29:22	ということが推定されますと、
0:29:25	何か結論で、
0:29:28	ございます。
0:29:30	この結果なんですけれども、この下の箱の一番下、
0:29:36	だから、2 行目。
0:29:39	になります、
0:29:40	時すべきだということは 4.4 章、先ほど御説明した各断層の形成時期はすべて同じ時代であるという評価を指示するという位置付け、
0:29:52	でございます。これ従来からこういう説明をしておりますが、

0:29:57	ここですねその一行上冒頭御説明した配置断層系は震源断層ではないと評価についても、指示するという位置付けでもありますので、この一行を今回追加しています。
0:30:11	特に定性面は地すべりだということを根拠として震源断層じゃないとしてるわけではありませんが、まずになりそうでないとしても整合的な結果だと別の観点からも見ているよという意味でこの一行追加しています。
0:30:27	個別変更箇所の説明は以上になります。
0:30:32	まとめの文章が 385
0:30:36	380 ページ以降に、
0:30:39	ございますけれども、ここも、
0:30:42	先ほどまで御説明した内容を踏まえて見直しを行っております。
0:30:50	以上が前回資料からの修正点の説明になります。
0:31:01	規制庁のスガヤです。ご説明ありがとうございました。
0:31:37	規制庁ナイトウですけども、論理構成を教えてくださいただけれども、複数回動いた断層との比較ということも断層の比較をやってますよね。それとは違いますよねっていうのは示されてただけど、でも、
0:31:53	後ろのほうへ行くと、地形は成因は地すべり
0:31:59	であると想定されますとしていて、ちょっと地すべりって基本同じ場所で何回も繰り返し滑るものなただけれども、
0:32:10	地すべりで、
0:32:13	見たときに、
0:32:15	繰り返し動いているものではないっていうのは何を言って言われるんですか。
0:32:27	中部電力のモリモトでございます。
0:32:31	まず成因は地すべりと
0:32:35	ておりますが、ナイトウさんおっしゃるのは地すべりっていうのはずるずる、
0:32:41	動いていくもんだらうという
0:32:43	ことかと思いますんで舞鶴我々地すべりだというふうには考えておりますけれども、そのずるずる動いていくということも 1 回のイベントだというふうに考えておまして、あくまで 280。
0:33:03	4 ページ。
0:33:09	説明しているようなですね、今複数回動いた断層というのは、
0:33:13	ここに書いておりますけれども、1 階、5 強後に、ある程度時間間隔を持って再度動いた。
0:33:22	断層、こういったものとは違うと。
0:33:25	というような比較を行って、

0:33:29	います。
0:33:37	規制庁ナイトウですけれども、MeVわかんなかったけれども、要は複数回位いい繰り返し動いている断層との比較をした結果としてそれと違うから複数回動いてないっていう
0:33:54	根拠にしてるっていいことですね。
0:33:59	はい。その通りです。こういう
0:34:05	1回、
0:34:07	イベントとして動いたと。そこから
0:34:10	どうして全く止まった状態から再度
0:34:15	動き直したというものとは違うということを284ページで言っています。
0:34:21	規制庁のですけど、それはだから断層としての部分だけね。
0:34:25	言ってるってことね。
0:34:30	いやあの皆さん皆さんもご存知だと思うけど地すべりって、まずカッていうか時間かけずすぐくっという話もあるし起こったところでは時間間隙を行って何回も何回も滑りますってというのは基本的な考え方なんだけど。
0:34:45	そこをそういう形も含めてもう断層との比較で複数回動いてないってこと判断したってそういうことでいいですね。
0:34:59	中部電力イマイです。今回特に裁量物質で再活動していないかというのがポイントになっていますので、特に薄片の構造まで含めてですね、調べた文献ということで我々こういったものを今回集めて比較しております。
0:35:15	ナイトウ損傷今地すべりだっという何回も動いているだろうということがございますけれども、例えば債権を
0:35:21	松本信金だとかもやってみやぎでもは地すべりを聞いてますし、そういった事例も我々もちろん見ておりますけれども、空いた時スピードで基本的に頑張るの中の層理面を使って滑っていても大体掃流SB低角なもんですから、
0:35:36	一番さっきの上野の高角電話掘るとちょっと比較するのちょっと今上がるかなということで、今回はこういったいわゆるまたそう
0:35:44	テクニクな断層を中心に比較をしているということでございます。
0:35:50	アマノセット地すべり断層につきましてもですね、なかなか発表まで調べた分岐じゃなかなかないんですけれども、もちろんのボーリング孔とかで見ても断層面上には分厚い粘土が発達しているとか、その上下の岩盤が破碎していると。
0:36:05	良い状況が確認できてますので、そういったものとの違いは我々としては一応確認はしているというものでございます。以上です。

0:36:25	規制庁タニです。僕の方でちょっと確認したいのがその繰り返しの運動って言うてるのが何か今日の説明で何となく
0:36:38	おっしゃりたいことがだんだんわかってきたかなと思うんですけど、この形成時期って言われてるっていうのは、ある程度幅があって、
0:36:46	その幅の中では、それは何回か動いてることもあるだろうと思ってるってことなんですかね。その形成時期のずっと後になって再活動していないっていう説明をされてるってことなんですか。
0:37:01	その複数回っていうのが、
0:37:06	1回だけ去って動いてるっていうかそういうことを1階の活動って言うてるわけじゃないっていうことなんですかね。
0:37:14	わかります私言ってるの。
0:37:18	渋り抜けました。そういった認識でよくて、一番それが形成された時期というのは改定においても2から半固結一つ思っていて、その時代において略算役目20メートルぐらいできてますので、それはもちろん一瞬ですと行ったわけではなくて、
0:37:34	ある程度の期間を削る滑ったんだろうと思っております。
0:37:38	それにつきましてはそれはあくまでも形成時の1回のイベントというふうに考えておまして、後程説明しておりますのは複数回っていうのはそのあとに再活動したかどうかという観点で考察したものでございます。
0:37:52	以上です。規制庁タニです。はい。何となくお怒りですそのだから1回のイベントっていう言葉がですね、やっぱりちょっとわかりにくくしてるのかなんていうふうには感じたんですけど、期間の中では何回か動いていることもあるんだよってっていうのは、
0:38:09	説明としてはほぼ変わりました。それで、
0:38:14	その中でH断層系の何ていうんですかね、再流物質があるところと流動化しているようなところの違いっていうのは、その間で、
0:38:26	例えば何回かごことで違いが出てるとかそういう話なんですかちょっとその辺の関係がですね。
0:38:32	左右物質があることっていうのは、1回のイベントの中でどうというふうに考えて左右物質を
0:38:41	があるところと他ある幅で高流動的に変形しているようなところとの違いがあるっていうふうに考えているのか。
0:38:51	モリモトです。そこのところはですねもう今となった正直わからなくて、
0:38:57	先ほど時観測あの話もありましたけど、
0:39:04	一定期間、ずるずると言いましたけれども、その時間幅も、

0:39:14	今見える。
0:39:16	ここではわからないと。
0:39:18	というのが実情ですね、再レビュー数とあと流動変形をしているような母岩の部分一番それ特徴としてはありますけれども、そこは
0:39:29	何回も御板からやわらかくなってるといわけではないでなくて、あくまでひずみが集中してるところが、
0:39:37	たまたまたまたまってるか、変位として断層面になっていて、槽類やわらかくなっていると。
0:39:46	というような事例だというふうに考えております。
0:39:50	ちょっとボートのナイトウさん、御質問いただいた断層と比較してと 284 ページの内容、
0:40:02	ご発言いただきましたけれども、
0:40:05	地すべりであろうがですね、こういった並べているような断層であろうが、
0:40:13	その成因が行かんであれですね、その変位として目を持っているような構造というのが、
0:40:21	もうある程度、
0:40:23	周りの物性若手変わるようなですね、時間管理機を持って、
0:40:29	動くというような状況であれば、こういう
0:40:34	層状構造であったり、間口へんこういった構造が見られるだろうと。
0:40:38	いう前提のもとで、今回対比を行っているというのが検討の内容です。
0:41:28	すみません、中部電力アマノでございます。少し
0:41:32	資料上の書き方が今ひとつなのかもしれませんが先ほどタニさんはおっしゃられた通り私たちとして説明したいこととしましては、今地すべりという金融を申し上げたいな。
0:41:48	そのほか、
0:41:50	申請時代として、
0:41:52	地すべり、これは津浪の審査でもやっていただけてますけどある一種、ある1秒で動いたというわけじゃなくてそれは実質現場なので、1年目のかねるかわかりませんがある事実問題としては短いスパンの中で動いて部分があるように動いているでしょうと。
0:42:12	いうところですので、それを
0:42:15	そのあと続成作用を1回動いた属性作用が始まって実質年代としてある程度、断層としてでき上がった結果として、当然それができたときには協会にされる物質ができてますんでそこではどの成分とその成分というのは、運航して、

0:42:33	いるというのを抑える物ができ上がってまして属性作用が続いて、
0:42:39	その中で、ある程度公開してきましたとする。その後に再活動したかということでサイレン物質のところをしっかりと確認させていただいてそういう再活動した形跡はないだろうと断層と、
0:42:52	再活動瀬断層と比べて、そういうものは発見できませんよということをお伝えしたいというつもりで資料はつくっています。なおですが地すべりってというのは地すべりとしてのある1階という話をしていますけど。
0:43:09	それは非常に本当に我々人間の短期間の中で何かすべてたかかっていうところはモリモトと申し上げた通り、そこまではわかりませんと地すべり面での地質現在のスパンの中で1回動いているというふうに考えています。
0:43:31	規制庁サグチですけれども、
0:43:33	ちょっとですね、私も少し混乱をしています。実際にというのは、今の説明だと別に何回。
0:43:45	動こうが
0:43:46	とにかく動くときは、すべてが一緒に動く。
0:43:50	いう説明。
0:43:53	をされている資料、
0:43:55	と私は少なくとも
0:43:58	見たんですけれども、それが1回だろうか2回だろうか。
0:44:03	ただ、一方で、
0:44:05	資料見てると、1回しか動いていなくて、その後は動いていないというふうにも見えるんですよ。
0:44:13	で、御社の
0:44:15	まず考えとして、
0:44:17	本当に1回しかすべていなくてその後全く動いていないのか。
0:44:22	それとも何回大分かっていうのはよくわかんないんだけど、ずるずるとごくとかそういうのも含めてですよ。
0:44:30	とにかく動くのはすべての断層が全部一緒にしか動かないんだということを説明されているのか、どちらを
0:44:40	ちょっと御社として説明されているのか教えてください。
0:44:54	もともとですね、
0:45:05	それはアマノから説明しました通り、1回をどうとらえるんだという話がまず
0:45:14	ありますがその地質年代から考えたときの1回のイベントというところの話をさせていただけますが、その1回のイベント以降は動いていないというのが我々の考え方です。資料の中で4.4章の(1)の部分のH断層系の活動機構として、

0:45:33	京成のときも形成後も一体で動くんだという話をしておりますが、携帯じみたときのみ断層だという堤体で見たときは、
0:45:46	政治も仮に形成時であごめんなさい形成時それから仮に訂正後ごくとしても、一体で動くメカニズムを持った断層群だというのがまず一つ。
0:45:59	詳細に細かくミクロな視点で見てもどうなんだっていうことをやってるのが 4.4 の(2)と(3)ですけども、まず形成は、同時だという話と、(3)でやってるのが、
0:46:15	その 1 回、
0:46:17	形成したという後は、もう一度動いてはいないということをやって検討しているというものでございます。
0:46:32	はい、サグチですんで、なので、結局は今の今の経営上というのか、分布になるような形で、それが別に。
0:46:45	1 回ですべてが 20 メーター動いたのかっていうとそうかもしれないけどそうじゃないかもしれないけどそこはちょっとよくわからないんですけども、とにかくこの 20 メーターという落差を形成する過程においては、すべての断層が
0:47:02	同じように、全部、例えばそれが 2 回でできたとしてもまだ 2 回全部、すべてが動いた産科医申し 3 回これは活動してそれで今の 20 メーターという落差なんだったら 3 回ともすべての断層が動いて、
0:47:19	20 メーターなつたと。
0:47:20	そういう説明をされているのかなと私は理解したんですけど、そういうことじゃないんですかね、それとももう、この 20 メーターなりはもうとにかく。ある期間というものはあるんだけどもその中で一括して 1 回として動いた。
0:47:37	のか。
0:47:38	どうかっていうそこを考えたんですけど。
0:47:49	模様です。20mの落差ができたのを我々は 1 回のイベントとしてカウントしたときに、
0:48:00	それは 1 回でできた。その中が細かく
0:48:05	昨日 10 メーター終えて、1 ヶ月後に、10 メーターを超えたというのはもしかしたらあるかもしれませんが、
0:48:12	それが動くときっていうのは全部一体で
0:48:19	1 回目に※動いてるとい、
0:48:23	もので、
0:48:25	だというふうに考えてます。
0:48:39	それでサグチさんがおっしゃっていること。

0:48:43	沢山の御理解の通りだと思っておりますが、どうでしょうちょっと認識のずれありますでしょうか。
0:48:59	規制庁ナイトウですけども、サグチが効いているのは、二つ医療法の考え、例えばだけど二つの考え方があるとかどっちですか。
0:49:08	と聞いて、いや、する通りですって言われても、どっちなんですか。
0:49:24	はい。
0:49:27	中部電力イマイですけども、この1と二つあったと思うんですけどやっぱり我々としてはそのま20メーター動いたというのはそどれぐらいの期間はもちろんわからないんですけどもそれも含めて、1回のイベントだというふうにして、それが何回かというふうにもともと分けられるような
0:49:44	こともできないと思っているので、あくまでも1回それが大分古い時代のある期間であることは思っているんですけどもそれをそこに分解する調査データももちろんありませんので、あそこはそうのように考えているというものでございます。
0:49:59	以上です。
0:50:03	えっとね、規制庁ナイトウですけども、そうするとで皆さんが1回のイベントって言うのは、
0:50:09	1回のイベントではないってことでいいですね。
0:50:13	複数回の活動なんか滑りが生じた可能性もあるけれどもある一定期間の間をの形成期として考えた時多い。
0:50:24	いいというふうに言っているということですか。
0:50:27	1回のイベントと滑ってることが1回のイベントあって、複数回すべてといっぱい別じゃないですよ。
0:50:34	だから1回の1回のイベントっていうか1回の滑りですべてが20PaとH系のやつがすべて20mとか、落差違いありますけどそれが1回の
0:50:48	滑りでできたというふうなことではないということを説明したいっていう、それでいいですか。
0:50:56	モリモトです。ちょっと1回2回程度やっぱりちょっと
0:51:02	というところで、そこがあるのかなと思わなくてさっきおっしゃったようなある程度形成期を持って京成のスパンがあってできていると。
0:51:11	いう考え方ですので、その中でナイトウさんおっしゃるような1階2階3階というのがあるかもしれませんが、
0:51:19	そこに関してはもう今例えばわからないと。
0:51:24	それを今資料上は1回として表現していたというものです。
0:51:33	サグチですけども、

0:51:36	じゃあ、そうすると、いや、本当によろしいんですかっていうのは、その 284 ページでもう結局、今回
0:51:45	再活動もしていないことも含めて、
0:51:49	これ裁量物質中って複数の層からなる層状構造って結局ないんですよ。これがある。
0:51:56	ってなると。
0:51:57	複数回を行ったよね。
0:52:00	てなると思うんですけど、それが認められないから、いずれにしても、これはもう 1 回の活動で、しかも後もう活動していませんという説明をずっとこの後、
0:52:12	これまでされてきたと思うんですけど、そこはちょっと何か今の説明とまた変わってこないですか。
0:52:27	中部電力イマイです。沢山おっしゃったような認識でずっと良くて、我々は前から今回、これからもそういう認識でございます。
0:52:36	やっぱりその一等 284 ページに示すような複数回動いた、構造として層序構造とかっていうのはありますけれども、やはり断層が動いて、そのあとあるある程度時間間隔があって、その間に断層の性状が変わったり応力がかかったりとかして、
0:52:52	また動く別の構造ができるというような知見かと思っております。
0:52:56	いえ、一番早期の再緑地がそういったものがないので、基本的には 1 回の活動例できたというところは何も変わっておりません。
0:53:04	例えば形跡というも大昔の海の中の現象としてですね、その後、最近の我々が見ている現実の中の活断層の 1 階とその位置はそれの形成期のときの以下っていうのはそこはやっぱりその
0:53:18	同じように考えたらちょっとともとも難しいと思っております、正副ということをもって我々としては形成期の 1 月の検討 20 メーターの落差これをあくまでも 1 回っていうふうに表現をしております。それはその砂粒部室に層状構造がないということもあって、あくまでも 1 回のイベントだと。
0:53:35	というような説明をしているものでございます。以上です。
0:53:41	規制庁ナイトウですけども、やっぱり今の説明で何か言ってることが矛盾しているような気がして、
0:53:48	そういう部分を見ると積層構造なりがそういう複数回動いたものが見られないから 1 階だったら、これは観察事実としては 1 回、1、1 回ですよ。なんだけど、だけど、
0:54:09	I 系が全体として作られた期間の中でも複数回動いてるって言われてんだけどそれって矛盾されていることを言われてんじゃないんですか。

0:54:22	支部と前です。複数回というその分解能がもともとないということでもありまして、要するに、同じような海底の環境下で探すの交換がマニーから固結の時代において、20メートルできのお客さんをもって1遊びが形成されたと。
0:54:39	ということですので、それを何とか複数回動いたかどうかというような汚染あくまでも当社としては1回のイベントとして形成されたという、それはそれだけの平行とそれぞれの方ちよつと言えないというような認識でございます。
0:54:56	以上です。
0:55:08	規制庁のカイダですあれこれこの話前回私のほうでちよつと
0:55:12	20mも一遍に動いたのか、その間、何遍も動いたのかということでちよつと確認させていただいて何か今回、
0:55:23	形成時の形成期の活動が終了した後、ある程度の時間感覚を持っていつ解除して活動したっていうような表現を
0:55:33	変えられたということで、今ほど今説明されてた内容は前回もちよつと聞いたような気はするんですけども、
0:55:41	結局改めて確認なんですけど、地質学的イベントで1回っていう御説明かと思うんですけど。
0:55:50	ここで何かこう断層の微細的な構造を見ると、
0:55:55	ここに283とか4ページに書いてある。
0:56:00	断層では、
0:56:02	懇何回も超えた層状構造みたいなものがありますそれとは違いますという
0:56:08	説明で、これもこれもまた前回と同じなんですけど。
0:56:12	例えば青山ほかでは10回分の層状構造、
0:56:17	多分10回っていてもこれ、
0:56:21	何か1回何千年かごとで10回なんで何万年間の間にできたものとしてタナカニュージーランドのやつが300年周期、
0:56:32	みたいなのが書いてあって、
0:56:35	結局、
0:56:36	農地の時代に見れば、こういった周期で何回か動いたものっていうのは、
0:56:43	御ダイバーとなってみたらある地質時代1階の地質時代で、
0:56:48	迎え動いたものっていうふうに認識されることが多いと思うんですね。
0:56:54	こういった微細構造でもそういったあるうち、こういった3何百年か何千年周期で動いているもの。
0:57:02	2なんかでしっかり層状構造みたいなのが見えて、
0:57:07	で、この敷地の断層っていうのは、そういったものが見えません。
0:57:12	っていうことは、

0:57:14	やっぱりそんな何百年周期の安全に周期で動いたもんじゃないで、
0:57:19	20mか一遍に動いたっていう説明にもまた聞こえてきてしまったんですけど。
0:57:26	そこはやっぱりなんか、
0:57:29	地質時代のある意味イベントとして1回っていうのは、
0:57:32	そこはまあわかるんですけどその中で何か動いたかっていうのは、
0:57:37	わかんないけどさ、こういうす。
0:57:39	層状構造はないと。
0:57:41	いう説明なんで。
0:57:48	他に何か、何ページか後で1回しか動いてないDとの比較みたいなものなんですけど、それは、
0:57:57	まさに1回、
0:58:00	1回しか動いてないものを持ってこられたということなんですか。何ページだったと。
0:58:09	ちょっと今回追加されたのが、
0:58:12	どこだったかな。
0:58:14	4ページ。
0:58:16	モリモトですけども、開催回数という意味ですね1回の断層との比較はやってやってないです。
0:58:26	うまみこっあいつ断層系と2か性状の断層が
0:58:32	できる地層と何だっという検討273ページでやってますけれどもそれをまたちよつと違う話。
0:58:40	です。
0:58:50	当274ページに出てる写真をこれはまた別。
0:58:54	なんでH断層系と類似した性状を持つ。
0:58:58	ものっていうのはこれは特に回数の話じゃなくて、見た目似てるっていうだけです。そういった話です。
0:59:08	274ページは273ページに書いてるようなものの代表例という。
0:59:15	位置付け出してます273ページはどういった断層かという、1断層系と、
0:59:21	見た目といいますか同等から微細構造まで含めて、似ている断層という位置付け。
0:59:30	特に回数がどうだというところはここではしてないです。
0:59:37	未固結んとこでできるとこういうふうになるっていうことで回数っていうのは、
0:59:43	概念は入ってないということで、
0:59:45	わかりましたんで、結局その

0:59:49	さっきの話に戻るんですけども 20m やっぱ一遍に動いたから層状構造微細部分を見ても、層状構造がなくなっているという
1:00:00	説明に変わったというか、もともとそういう
1:00:04	御説明なんでしょうか何かそれとも止まっちゃう動いてとまっちゃう動いて
1:00:09	繰り返して今累積して 20m になったという
1:00:13	ことなのかちょっとそこを何か同じようなこと何でも聞いて申し訳ないんですけど。
1:00:19	そこはちょっとクリアにしておきたいんですけども、いかがですか。
1:00:26	中部電力イマイです。ちょっと説明が悪かったかすみません、あくまでも我々は 20 メーターが 1 回の滑りでできた位置が総計が規制されたというふうに考えております。
1:00:39	ただその、その 1 回のそのスパンが昔の話なんでそれが一瞬数秒なるかすものすごいスピードでたのかどうかってのはわからないんですけど、あくまでもその 1 回の滑り 1 回の計整備 E1 の総計という正断層群ができたというふうに考えているというところでございます。
1:00:56	以上です。
1:00:59	以上です。
1:01:14	規制庁タニですけど、私最初このやりとりを始めたころに何か 1 回ってという言葉を一時期ってという言葉に変えればいいのかなんて最初そう思ってたんですけど、そういうわけじゃないってことなんですね、1 回はやっぱり 1 回行って、ちゃんとと言わなきゃいけないというのは御社の考え、
1:01:31	1 時期のエザキなんか、
1:01:35	1 時期のイベントって意味かなと思ったんですけどそうそういう意味じゃないんですね。
1:01:43	粒電力アマンです。
1:01:46	ちょっと、多分、時間の間隔を共通に私たちがちょっと欠けてないでここ混乱してるんですけど、タニさんがおっしゃる通りで 1 時期なんですけど、じゃあその一時期っていうのも、11 日で起きたら、
1:02:01	いいのか 3 日だったら、複数回と呼ぶのかというところは結局私たちはわかりませんと。
1:02:09	でも、我々 20 メーターというアクサは、それは、一時期、1 回ですべててると思いますがそれが 1 日 7 日 3 日なのか、1 ヶ月なのかわかりませんが一つのイベントとして起こるときに起きているであろうとカイダさせられる例えば 300 年周期でずるずるずるってというような
1:02:28	ことであれば今回お示ししてるような材料物性の中にそういったものも見えてくるはずでそうではなくて、地質の状況としては変わらないんですけど、それが本当に

1:02:41	時間軸としてスパンで動いたかどうかのわからないのでちょっとそこは我々の考えとしては、
1:02:49	実質、大的に1ひとつのイベントとして起きて落差を作っているというふうに考えてますので、少しちょっと表現はもう少し統一できるように考えたいと思います。
1:03:07	はい。今の御説明、ちょっとこのやはり
1:03:11	この資料から読み取れないので、
1:03:15	おっしゃることはなんだろういったことをおっしゃりたいかっていうのもこうやって言葉で聞いていると、何となくどういった説明会ってというのは、
1:03:25	わかりかけてきたんですけどちょっとそこは資料に今程なんか低い表現を工夫されるということでしたので、しっかり書いていただきたいと思います。よろしくお願いします。
1:03:44	規制庁の稲場です。承知しました既設のイトウですけれども、確認なんだけど、皆さんが主張したいの地形っていうのは、
1:03:53	未固結から半固結時代に形成期というのがあって、
1:03:58	形成キーは動いてきたんだだけ20形成期において20mの落差作ったんだけれども、形跡以降動いてないってそういう趣旨なんですか。
1:04:12	モリモトsのおっしゃる通りです。ある程度の時間幅としてはあるからそれを1回と表現してましたけれども、
1:04:21	その期間で動いたものでそれ以降動いてないということを言いたいです。
1:04:28	アクセスなどがわかります。それから貯槽カイダさいかいというから
1:04:33	おかしくなるんですよ。
1:04:35	動いているのは1回じゃない。1回かどうかもわからないってことなんですよね。
1:04:40	よ。
1:04:41	それを1回と言われるかわかんない。
1:04:50	モリモトですね承知しましてちょっとそこがちょっと誤開誤解といいますか、このやりとりの根本だという認識。
1:05:00	ですので、ちょっとそこは表現。
1:05:03	皆をさせていただきます。
1:06:26	はい、サグチですけれども、ちょっと
1:06:31	関連しているという場合に関連しているかもしれません。
1:06:38	ちょっとその形成
1:06:40	の話で、
1:06:43	ちょっと気になる。

1:06:45	ところっていうのか確認をさせていただきたいんですけど。
1:06:52	結局のところ、
1:06:54	活動気候のところでは254ページ目以降ですよ。特に形成機構低で御社は基本的にはこれが
1:07:07	今のこの分布形態とか、
1:07:10	ごみのホール等によく似ていますよね。
1:07:14	ということで、
1:07:16	で、
1:07:17	なので、道民のホール等っていうのは、
1:07:20	この257ページ目以降で文献にもあるように、これは一体として動いているものなんですよ。
1:07:31	だから、H断層系もこれで一体として形成されたんだろうという。
1:07:39	流れでいいんですよ。今の御説明だと。
1:07:47	モリモトです。ちょっと
1:07:51	少し
1:07:54	千葉店があるので、補足させていただきますと、
1:07:59	254ページ255ページまで純粋にですねSR系が分布形態を見てやると同じ額差であって等間隔で同じ同じ落差同じ傾斜で等間隔に分布する。
1:08:15	地層の後方回転を伴っているところをまずんなの点けもなしにまずその観察事実だけです。ニュートラルに
1:08:28	一体。
1:08:30	6の会見を伴って一体として、ウォーク断層であろうということを書いてそれが255ページで
1:08:43	一般的に、
1:08:45	こういう平行な、どう落差の断層をどうやって言われているんだというところで、
1:08:52	ちょっと
1:08:55	教科書なんか見てやったほうが257ページ以降で、
1:09:00	先にいた断層等の法律を呼ばれていて、
1:09:07	同時に活動すると。
1:09:10	いうふうに言われているので同時に活動するということは我々はそのH断層系の経済から見ていっている。一体で活動するということと、整合的同じことを言っているというところで、一体だという話をしています。
1:09:27	あとゴミの
1:09:28	ごみ法律に見てるから一体だという文献ありきで話をしているわけではなくてですね。

1:09:38	づき形態のところからメカニズムとしてこうでしょうという話をした上で、
1:09:43	それを補強といいますか。一般的にも声が言われているんだというのを説明しているという流れ市長でございます。
1:09:55	はい、坂口です。
1:09:57	実はそこ。
1:09:59	私は本当は聞きたくて、
1:10:02	要は主従の関係ですよ、255 ページで一番私が実は確認したかったのは、
1:10:10	以上よりの後のところで浅部の横断相関ブロックの改善だと思わないすべての断層が一体として活動し形成されたって、
1:10:21	ここのまさしく根拠なんですよ。
1:10:27	これって、
1:10:28	以上、いや、こんなものはもう常識ですよって言ってっちゃったらそれまでなのかもしれないんですけど。
1:10:36	今のこの分布形態、
1:10:39	から見ただけでなぜ一体として活動して形成された断層群ということがいえるのかっていう
1:10:46	そこの根拠ですよ。
1:10:48	それはいや文献でも示されてますけどこういう都民の方とみたいなものがあって、これに非常にメカニズム統合しても、よく似ているので、
1:10:59	性状ですよ、性状とか分布なので、これは一体として活動して京成 3 メーターものだと考えられるっていう
1:11:09	説明じゃないかなと思ったんですよ。
1:11:13	あくまでも分布形態から、
1:11:15	すぐそのまま、いやこれはもう一体として活動して形成されたものなんですって。
1:11:20	いえるんですかねっていう、そういう確認なんですけど、御社はこの分布形態だけでこれはもう一体として活動したと、今の御説明だと、そういうことになるんですけど、ということはあくまでも文献で言われているようなことっていうのは、
1:11:36	確認のためにこんなものもありますよ程度のものなのか。
1:11:40	いや文献の知見と照らし合わせて、
1:11:44	そういうことでしょうと。
1:11:45	いうことなのかちょっとどちらなのか教えてもらっていいです。
1:11:54	モリモト等で主従関係という話がありました、
1:12:01	あくまで我々はH断層系の分布形態を見てですね、
1:12:09	もみ殻一体だというのはまずいえるだろうと考えてます。

1:12:13	ちょっと 254 ページ 255 ページ
1:12:20	言葉だけで書きちゃっているの、わかり、ちょっとわかりづらいところがあるのかなとは思いますがけれども。
1:12:29	携帯としてですね、
1:12:33	同じ落差で同じ傾斜で、
1:12:37	僕が回転しているという状況を踏まえればですね、なおかつ
1:12:47	力として、
1:12:54	特異な活断層とかそういうのが下がないという状況を踏まえれば、幾何学的に一体にしか動き得ないというふうに
1:13:02	考えておりました、
1:13:05	その企画部長法のみで一旦 255 ページでまとめております。
1:13:12	それに教科書の内容持ってらしてというのが、後でやってどちらかでこちらが 10 になりますが、それは 257 ページ以降の内容です。
1:13:25	ちょっとこの辺りにですね何ですかね。本ポンチ絵というのはあれですけど、こういう形態から判断しているというところは、
1:13:35	それともうちょっとご理解もいただけるのかなとは今ちょっと考えてますが、
1:13:40	まずは一旦形態から判断しているというものです。
1:13:44	破碎部です。考え方はわかりました。ちょっとモリモトの今、最後のほうもちらつと言ったんですけど、ということは、実はこれだけじゃなくて、
1:13:55	293 ページ目以降ですよ。
1:13:58	これも実は入ってってということなんですか、その周りの状況がどうのこうのことだとか、幾何学的にどうのこうのとかって、御説明あったんですけど。
1:14:09	もうこの
1:14:11	ここまでの 255 ページまででは、
1:14:14	言えないんですが、これはでいうと、
1:14:17	ように機械間こえたっていうのと、
1:14:22	もう 1 個ですね、これまあ以前からちょっと
1:14:25	議論になっている部分でもあるんですけど。
1:14:29	このブロックの
1:14:32	ここ書いてんですよ。
1:14:34	これ
1:14:36	確かにそう見える。
1:14:39	部分もあって、
1:14:41	かといって一方で特に海側って本当にここで
1:14:45	見えてますかね、以前からもこれ議論で、

1:14:49	まだ多分これ我々も完全に
1:14:53	わかりましたと言っていないくて、
1:14:55	御社はあくまでも反射法とか、あと、海上音波探査で、
1:15:03	反射面の乱れが見れるというふうに見られるとか、
1:15:06	若干なんかその地表面の形状は北に傾斜しているとかっていうのはあったと思うんですけど。
1:15:15	少なくともボーリングとかで、
1:15:18	示されている。
1:15:20	A断面図とかですよ。
1:15:23	で見ると、特に海側、
1:15:25	この断面図で
1:15:27	これ、
1:15:28	6改善しているようには少なくとも見えないんですよ。
1:15:32	なので、その辺りって。
1:15:35	どう御説明されるんですかねっていうところをちゃんと
1:15:40	海側海域のところもきちんとブロック回転していますよということが、
1:15:47	どの部分で示してあるのか。
1:15:50	というのと、
1:15:51	示さず直接港の明確に示さずとも、こうこうこういう理由で、
1:15:58	こうなっているんじゃないかと。
1:16:01	いう例えば考察なりが書かれていたりするのかどうか。
1:16:05	ていうのをちょっと教えてください。
1:16:11	中部電力イマイです。2点ありましたけれども、もう1点のその海側は後方回転しているのかと。
1:16:19	いうところがございましたけれども、これ
1:16:21	昔からありますけど、223ページでつけておりまして、
1:16:26	会議なもんですからもちろん大深度のボーリングがないんですけども、そこ反射法地震探査で補っていくってことで、
1:16:34	の反射面の化粧水と債ところは、
1:16:38	ほぼ推移
1:16:39	深いところは右側に鶏舎大きくなっている。
1:16:42	いうところ持ちまして相対的に浅いところは、新聞に比べておこう回転しているというふうに我々はそう解釈をしております。

1:16:52	これはやっぱりその海側と陸側そのもともとのおそらくその差が層理面の傾斜がちょっと変化しているというところも者は消防から始めておりますので、そういった相対的な意味で会議も公開意見をしているだろうと。
1:17:05	いうふうに考えているというところでございます。
1:17:09	あともう1点 255 ページの応力場みたいな話は、その後ろから引っ張っているのかっていう話がありましたけれども、約 55 ページの青の四角書きの2行目で、前期鮮新世以降の敷地周辺は東西方向の応力圧縮応力場にあるというようなところが、
1:17:25	わかりました。ここは多分
1:17:27	ちょっと今回資料として省略したかもしれないですか。もともと前半のほうで説明しております、そういったことを踏まえて、この箱書きの解釈となっていると。
1:17:36	いうようなところでございます。
1:17:38	以上です。
1:17:42	はい、サグチですけども、これはこれ以上議論になると思うんですけど。
1:17:47	あくまでも約 23 っていうのは御社としては参考的な扱いですよ。
1:17:54	ていうそう考えることもできるかなあぐらい。
1:18:02	一方でやっぱり一番大きいのは、
1:18:07	地質断面図ですよ。例えば、
1:18:10	71 ページとか、
1:18:13	これを見ちゃうとですね。
1:18:15	本当に
1:18:17	海側って後方回転しているのっていう疑問が当然出てきて、
1:18:22	いやこれはちょっと測線上っていうのかなんていうんですかね。
1:18:26	ちょっと斜交、断層に対して通行してるからこうこうなのか。
1:18:32	いや本当はちゃんと後方回転しているんですよ、図学的的にちょっとこの面では、後方回転してないようにも見えちゃうんですけどっていう話なのか。
1:18:43	ちょっとその辺りも会を教えてくださいいいですか。
1:18:49	モリモトです。71 ページが会議も含めてですね、地質断面図ということでこれ比較的その浅い部分の
1:19:01	話をしてますで、会議のところどうなってるんだっていうところがさっきイマイが 223 ページを使って御説明させていただきましたがちょっと参考でついでと提案の御指摘もありましたがそのあとですね 224 ページ。
1:19:19	のほうで、敷地Gのは平面的にですね終わりにしてあって、
1:19:27	そこに出てくる地層の走向とそれから傾斜を示してる図を

1:19:35	四つほど載せております。
1:19:38	懇右下が一番深い標高マイナス 600 メーター日左上が一番表層付近になりますけれども、
1:19:46	こういったちょっと三次元的に雨ですね、敷地の地層の向きというのを見てやると。
1:19:53	この
1:19:57	標高マイナス 600 メーター付近というのは比較的
1:20:02	大局的な構造といいますか、もっと過ぎGA国近傍近傍スケールで見たときとの調和的な地層の向きをしていると一方で、
1:20:12	日標高 200mより浅いところで、これよりも上のところにさっきの 71 ページの断面図がいれば入ってきますけれども、
1:20:20	ちょっとその部分っていうのは、お 1 人のとは違う構造すなわち後方回転向きが変わっていると。
1:20:29	いう
1:20:31	構造をしますでここの部分をもってですね、
1:20:34	海域それから敷地の表層部分が向きが変わっているところを言ってます。ちょっと会議にちょっと包括したということで 223 ページが先に説明しましたけれども、主にはここの部分、エビデンスとしてですね。
1:20:51	敷地の深部構造の中で後方回転はこの範囲だよというところの説明します。
1:20:57	この 14214 ページのデータにビジネスをしてるかっていうところに使ってるのは、大深度ボーリングの公益調査であったり、敷地の
1:21:07	反射法の緩斜面、
1:21:11	の交点から求めた向きをここに載せてると。
1:21:14	家ものですので、こう改善海域も含めてどういうところに減衰するのかというのはずばり 224 ページです。
1:21:27	はい、サグチですわかりました。そうすると結局ごめんなさいねくどいようで 71 ページっていうのはあくまでもこの断面を切る。
1:21:38	この断面上程はこういうふうの後方回転していないようにも見えてしまうっていうそういう理解で
1:21:44	いいですね。そこをちゃんと確認をしてさせていただきます。当然こうこういう直接的にこう断面図を出されていると。
1:21:54	してないよねっていう
1:21:56	ふうに
1:21:58	少なくとも、外から見たらそう思うんじゃないですかねっていうことなんですけど、モリモトです。サグチさんのおっしゃる通りでその断面の書いている範囲がも

	うすでに向きが変わり切ったところだけを書いているから後方回転しないように見ると。
1:22:13	いうものです。
1:22:15	なんでもっと深いところの調査結果も含めて我々は後方回転するということを説明資料としても作っていますので、
1:22:28	ちょっと駄目とされて見えているというだけでございます。
1:22:33	はい、サグチです。わかりましたととりあえず理解をしましたので、ありがとうございます。
1:22:51	規制庁スガヤです。
1:22:55	すいませんナイトウですけども、
1:22:58	今のサグチとの確認の関係で確認したいんだけど、254 ページでH系断層は敷地から材全面貫掛という限られた範囲に分布する。
1:23:12	一番最後の集合H系断層、
1:23:15	なんですよね。だから後方回転の範囲が、
1:23:20	認められる範囲は限られるというのは今得られてるデータで、
1:23:26	説明できると思うんだけど、その範囲が1Kの範囲です。
1:23:32	というのは何をもってっていうんですか。
1:23:39	その範囲に
1:23:41	地形が分布すると、その外にはないですって。
1:23:45	決定してるんだけど。
1:23:48	これは何をもって決定してるんですか。
1:23:56	中部電力イマイです。この地域の大局的な構造というのが、もともと
1:24:03	文献でも示されております。全体的にはその南の方向に地層が傾斜していると、予算の褶曲構造が日後者のほうが南に開いているということからもわかっています。
1:24:15	いうところでございますんで、我々の敷地の調査で一番総計があるところに限って良い地層が北側を向いているというところがありますので、その両者には当然以下関係があるというところで、そういうふうに我々としては解釈しているというところでございます。
1:24:33	あそこの
1:24:35	浅部構造の4経産省のところですね、町と特に反射法だけじゃなくて、大深度のボーリングをやりまして、特に括弧に言うところの216ページ217ページ以降、
1:24:50	一番想定が分布する破碎ところだけえいっと。

1:24:54	日公社のもので地層が北側に話しているといったところがだんだん南た深部に行きますと、だんだん回転して行って、
1:25:03	広域と同様の南側傾斜南話になるということに関わっていくという、こういった調査結果も踏まえて、あくまでも地層が
1:25:14	敷地の浅いところに限って北側に傾斜しているということは1断層系により効果的だというふうに解釈をしたと。
1:25:21	いうところでございます。以上です。
1:25:26	規制庁すみませんモリモトですけれどもちょっとナイトウの設定ということは後方回転の範囲と別個に座席への分配同定し、危険するんだということかと思えますけれども、アマノや地下構造調査結果。
1:25:43	頁理由と、206 ページ。
1:25:49	これが
1:25:51	207 ページのほうがいいですかね、お引き継ぎの南北
1:25:56	側線これは陸域ですけれども、海域
1:26:01	今は 212 ページとかに示しております表層付近では、先ほど関連施設の構造があるのに対して、深部では発目が連続していると。それに加えて陸域調査できるところに対しては、
1:26:17	ページで言いますと、
1:26:23	226 ページ以降例として、断面図に 128 ページに示してますけれども、
1:26:35	13 とそれからH6 断層の延伸部では自走がちゃんと連続していることが確認をしておりますし、
1:26:42	それからいところの断層性状。
1:26:45	さらに見てやると。
1:26:48	241 ページとかがその結果ですけれども、浅部で見られる性状と深いところは異なっていると。
1:26:57	こういうところを踏まえると、そのH断層系、地表付近で見られるような構造を持っては、一井標高 300 名マイナス 300mだとかマイナス 400mの上のところに、
1:27:12	あるというふうに考えてますけれども、その結果と後方回転の範囲というのは概ね対応していると。
1:27:19	いうものでございます。
1:27:47	規制庁のカイダです。さっきちょっとご説明いただいた 205 とか 206 ページの
1:27:54	その他この反射断面のところの後方回転という地形の関係について、
1:28:01	御説明あのまま根拠というふうに
1:28:05	御説明があつてちょっと

1:28:07	直接関係する質問かどうかわからないんですけども、
1:28:12	これ書かれてる 205 ページにしても 206 ページにしても、
1:28:18	書かれてるラインっていうのは、特に反射面から、
1:28:22	H断層系とか地層がここにあるっていうのを確認したわけではなくて、
1:28:26	何かボーリングとかから作成したスリーDモデルの線をここに
1:28:33	書いてあるっていう
1:28:35	ことだと思うので、実際反射面を見てここに
1:28:41	この範囲に地形なり何なりの断層があるとか、
1:28:45	後方回転してるっていうのを、この反射面によってなんていうか、
1:28:50	確認とか、解析した結果じゃ。
1:28:53	ないように思ったんですけどもこれは先ほどの御説明の
1:28:59	根拠になる、なるのかっていうのとあと反射面を出すのになんでその反射面からわかる。
1:29:06	読み取った解析結果を確認じゃなくて、何か別のものをここに書いてあるのかっていうのをちょっと確認をしたかったんですけども、ちょっと
1:29:18	ちょっと脱線するかもしれませんが、それも含めて一段
1:29:23	I 系と言われているのがどこまで行あるのかっていうのはこれでわかるのでしょうか。
1:29:30	モリモトです。さっき 207 ページを使ってですね御説明させていただきましたので、この 207 ページへと下の図にですね、患者さんおっしゃるように 3Mモデル、重ねて、
1:29:45	少し示しておりますがこれおっしゃるように、この不連続面をなぞって書いたわけじゃなくて、その中でボーリングで確認した結果ここに重ねて示していると、これは以前ですね、
1:30:02	規制庁さんの方から御指摘をいただいて、
1:30:04	たところを反映した内容でして、今御指摘というのがいろんな確認書をボーリングであったり、反射法だったり、あと、
1:30:18	我々、オダのほうでも説明してますけど、砂岩比率の高いような地層があったりだとかマツスエが複数の調査手法を
1:30:28	対応関係というのはちゃんと整理しなさいというところを、
1:30:33	2 回か 3 回ぐらいの前の会合で御指摘をいただきまして、その結果を反映しているというものです。ここで言いたいのはちゃんとボーリングで見ているような構造があるようなところには、
1:30:51	不連続面としても確認できますよねというところの説明、
1:30:59	しするためのスライドなので、

1:31:03	何ですかね。
1:31:08	そこでの対象感じというのはもう、もうすでに過去にご回答済みというつもりで おりましたので、このスライドをもってじゃなくて、深部まで続かないんだって えるんだという
1:31:23	ことでしたけれども、特に
1:31:25	このボーリングの
1:31:28	なんていいますかね、ボーリングが
1:31:31	線が引っ張ってないから言ってるわけじゃなくて、新聞の 300 マイナス 300mと か 400mぐらい見ていただくと。
1:31:41	今日初めてとして連続しているというところをもって、ちょっとさっきご説明させ ていただいたつもりでした。
1:31:53	地層の後方回転との対応関係もですねすでに過去に資料として、
1:32:01	出させていただいておりますページで言うと、
1:32:07	どこがいいのかな。
1:32:10	222 ページGから
1:32:15	それに当たりますけれども、
1:32:21	グラフとですね反射面を
1:32:26	重ねてお示しております。
1:32:31	もう 1 年ぐらい前からこういう資料をつけさせていただいております。
1:32:35	このグラフっていうのは何かっていう土層のあれで示しているのは、地層の走 向ですね、
1:32:45	その向きで赤は傾斜で傾斜凍らないんだけれども、地層の走向が変化してい く様子。
1:32:55	その下には、
1:32:57	それがだんだん収束するようなところに強反射面としてちゃんと見えていると いうでおかつその強反射面というのは、この黄色でバンドで示しております が砂岩比率の高い相良層に対応すると。
1:33:10	いうところを複数の調査結果との整合性という観点で進めさせていただいては おりました。
1:33:21	ちょっとこの辺はですね
1:33:24	過去からの指示もあって、いろいろ
1:33:27	誤解を招いているところがあるのかもしれませんが、
1:33:32	一つ一つの調査をした上ですね、それを重ねてもうすでに検討をコメント回 答としてはやらせていただいたというような状況でございます。

1:34:31	規制庁ナイトウですけれども、いずれにしろねもうちょっとよくこの結論に至るのにどのデータでどう評価するのともうちょっとわかりをもらおう。
1:34:41	19トント断層系は、
1:34:47	浅部のつつ後方回転が認められる範囲に分布する。
1:34:54	それは当敷地から前面海域にかけられた範囲ですという二つのこと言っているんだけど、
1:35:03	地形があれば、
1:35:06	うん。
1:35:07	地形は後方回転している範囲に
1:35:14	のみ存在するっていうことと、
1:35:17	そして後方回転の範囲がこの範囲だから、1系は、この範囲ですっていうことなんだと思うんだけど。
1:35:28	そこを
1:35:29	しっかりと入ってもらわないと。
1:35:32	いわゆる心結論って、H系断層、市来は後者の中にしか存在しないという主張になると、後者の中の一刻限られた範囲にしか存在しないってことを
1:35:49	結論として言ってんだけど。
1:35:54	後者の外には存在し得ないということを言っているとイコールなので。
1:36:00	もうちょっとどういうデータに基づいてドールより構成でっていうのはもうちょっとよく整理してもらえませんか。
1:36:09	モリモトです。先ほどのナイトウさんの御指摘具体的には 254 ページの
1:36:17	下の箱の 3 ポツのことかと思います。一段組織をその候補改善が認められる云々というところで、
1:36:26	後方回転が認められる範囲とH断層系が認められる範囲
1:36:31	というところもちょっと分けて整理して各
1:36:36	過去、
1:36:38	ことになるのかなと思いますのでその辺の点は、
1:36:41	修正させていただきます。ちょっと 1 点さっきおっしゃった後者の範囲しかを分布し得ないというところがちょっと
1:36:57	まだ 1 回理解というかですね、ちょっと我々の言ってることとずれがあるのかなと思って。
1:37:05	おりますさっきですね、224 ページ使って御説明した。
1:37:13	図をご覧になっておっしゃってるのかなというふうに思いましたけれども、
1:37:18	と 223 ページで言いたいのは我々は特にその会社の範囲内に、

1:37:24	後方回転おさまってるんだとかそういう話をしたいのではなくて、そこまでこの範囲が後方回転が地層の向きが変わってるよということを言いたいたいがですね。
1:37:36	特にを施工図というか公社の構造に対してどうだということろは
1:37:43	主張としてはするつもりは
1:37:46	特に我々としてはない。
1:37:51	と考えています。
1:37:54	ごめんきちっとナイトウですけども、いやそもそも地質構造として見たときに地層の傾斜が異なっている範囲のあってってところからスタートしてる話であってその範囲で公社の中でですね。
1:38:12	とすればこの結論は交渉の中に近い地形は存在しないと言ってるんだけど。
1:38:24	跡地不連続イマイです。取られたデータがあくまでもその公社の中のだけのデータなので、その中での範囲について我々としては考察をしている。
1:38:35	いうところでありますのでイット校舎を超えて背斜軸の向こうがあまりってなってくると、もちろんそんなえっと、そもそもデータをとっていないもんですからそこまでは議論ができないというように考えております。以上です。
1:38:54	すいませんモリモトですけどもということろとあわせてですね公社公社の構造に規制される規制されないという所向きで抜きでも後方回転の範囲であったり、
1:39:07	それを根拠とした
1:39:11	一体で動くんだということろは説明できるというふうに考えています。
1:39:17	以上です。
1:39:18	ごめんなさい、規制庁だけど範囲の話とかいったような話じゃなくて、地形がどの範囲に分布するのかって話について、
1:39:26	今の 254 ページの結論は皆さんの結論は校舎内に
1:39:33	社内の
1:39:34	後方回転している地層の傾斜が異なる範囲内に存在するって結論なってるんだけど。
1:39:45	であればもうちょっときちんと説明してもらえませんかってことなんで、
1:39:54	この鉄工攻めにテーマが社内を見た結果だというだけであってですねその公社に補助の中にある層外にはないということろに我々としては意味を持ってないと考えているんですよ。その辺は、
1:40:09	皆さん貴重なんですけど、ここの決を読むとね、H断層系は、
1:40:17	し
1:40:19	すん浅部の地層の後方回転が認められる。

1:40:23	敷地から全面移管可決に限られた範囲に分布する。
1:40:28	市末断層は限られた範囲に分布すると言ってるんですよ。
1:40:34	1Kはその外には分布しないとってるんですよ。
1:40:40	これ皆さんが書いた文章ですよ。
1:40:48	ちょっと表示何をもって限られた範囲に分布してるのかっていうところもちょっと設定に説明させていただくというところそれは当然の根拠も含めてですね。
1:41:03	修正させていただきたいと思ってます。
1:41:07	はい、規制庁の確認ですけれども、皆さんの結論としてH系はこの範囲にしかないという評価されてるんですか。
1:41:17	そうじゃないですかどっちですか。今の文章はこの範囲にしかない。
1:41:22	してるんだけど、何かさっきに無理だとそうでもないという言い方を口頭でされたけど、どっちなんですか。
1:41:30	ちょっとモリモトです。ちょっと文章として誤解があるというか
1:41:37	と平面的な分布の話と、
1:41:44	審議層厚の分布の話は後方回転してるっていうのは深いところはしてなくて、浅いところだけしてるんだけど、そういった
1:41:52	分布の話が少しごっちゃになって、
1:41:56	いてですね、
1:42:00	誤解を与えてたかと思しますので、その辺は修正させていただきますのは限られた範囲というのはまず深度方向の
1:42:12	話はしたいというところが一つと、さっき公社の話がありましたけれども、この横方向の分布範囲というのは、正直我々も調査データ、
1:42:23	少ないのでわからなくてですね。
1:42:30	落合に行けば行くほど、この 254 ページ。
1:42:34	上の箱の 1 のところにも書いてますけれども、
1:42:39	沖合の話。
1:42:42	名的な話としてですね沖合方向の話もしてたりしてその辺が少し
1:42:48	整備できずにですね限られた範囲としておりますので、
1:42:52	その辺はちょっとあのは出て書くように、何を根拠に言ってるのかを
1:42:58	明確にさせていただきます。
1:43:05	規制庁の伊藤ですけども。
1:43:07	イとよくわかんないんだけど、地域地形はどの範囲に分布するのかということに関しては、
1:43:15	どちらですか、限られた範囲なんですか、わからないのかどっちですか。

1:43:25	モリモトです。事実としてはですね、深さ方向には浅部と同等の一部をどれぐらいにするのかというのは、このワークしています。平面方向の話、鳥栖東西方向ですね。
1:43:40	敷地の
1:43:45	海岸線沿いの外側にどこまで分布するのかよう終わりはどこなのかというところは置いてないんで、ただ、会計方向に
1:43:55	どこまで部分とか、少なくともこれより沖合には内容というところは把握できています。
1:44:07	規制庁のですね、確認だけど、だから平面的な広がり考えたときにH系はA敷地から海のほうについては抑えられていると考えているけれども、南北方向は海のほうは押さえていると思うけど。
1:44:24	じゃあ、北方向は東西方向は変わりませんって話なんだよね、北方向もわからないですか。
1:44:40	この際モリモトSAと北方向に関しては、
1:44:46	明確にここまでという資料というのは、
1:44:49	説明してはおりませんが、
1:44:52	後方回転と関連するんだらうということも待って言えばですね、ある程度の範囲で収まっているというふうに考えております。
1:45:07	規制庁のカイダです
1:45:09	です。今その辺の話に関連して私ども先もすでに決着済みだっというような話で何かおっしゃってた全例えば 205 ページのところの反射面を見てですね。
1:45:22	19 までしか線が書いてないんですけども、
1:45:26	その式タニも何か似たような何か斜めんなるような線みたいな、
1:45:31	あるにもないようにも見えるし、ここはちゃんとH級までしかないっていうのが、
1:45:37	こういった調査で、
1:45:39	北方向ですよ、押さえて何か押さえているのか、それとも、
1:45:44	これはボーリングでわかった。
1:45:47	確実なデータであるH級までしかただここには書いてないだけなのかっていうのをちょっとうまくそれも含めて確認を平面的にこう来たままでいくのか。
1:45:58	っていうのを検討されてるかっていうのも含めて聞いて効いたんですけども、
1:46:04	今の回答だと特にんないということで、
1:46:09	だからこのH級というのが一番も端っこの端っこで、
1:46:13	ひよっとしたらもうA地形かどうか。
1:46:16	よくわかんない。

1:46:18	端っこにあるものなのかもっと北にあるのであれば沢山 1QI地形がある中の
1:46:23	入ってくる。その中の 19 ですっていうふうにも見えるけどここは北にあるものはもうここは、
1:46:31	もう地形っていうのはここ 1Qで終わってこの北にはないっていうことを表現されていると。
1:46:38	ということで、
1:46:39	そういった資料ということで、
1:46:42	よろしいんでしょうか。
1:46:45	モリモトです。207 ページに書いているのはあくまでボーリングでくうできている断層をここに反射面断面に重ねて書いていると。
1:46:58	いうものですので、ボリュームでハグできているのは、北側 19 までということでこれを乗せて、
1:47:06	おります。
1:47:07	ちょっと北側どこまでだという話がありましたけれども、敷地Cの中でですねまず
1:47:17	H断層系の分布範囲と
1:47:21	深部方向の話ですね、H断層系の分布範囲と
1:47:25	深部方向の分布範囲と
1:47:28	後方回転範囲が対応しているという目で脊椎の広域の地質構造を見てやったのが見てやりますと、広域の地質図というのが、地質構造図 203 ページ載せてますが、
1:47:47	まず敷地
1:47:51	ちょっと出力が見にくいですけど、オオノ線が敷地境界ですね。
1:47:55	プランジの事項ですね。大局的な構造を赤で書いてます。それと異なるちょっと
1:48:04	陸側も必要なところの緑で書いてます。
1:48:08	選定方法ここに今後回転統一携帯をしてるんだという目で、この平面的な分布を見てやると。
1:48:16	分布範囲もある程度この敷地からちょっと北に行ったところ辺りで止まってるんだらうというようには考えております。
1:48:27	さっき加藤さんも申しあげましたけれども、何をもって反映予定しているんだとか、そういったところがさっき今口頭で申しあげた内容も含めてですね。
1:48:38	ちょっと見にくいところがあるかと思しますので、そこは
1:48:45	データとしては出しているんで、その文章のほうで補足させていただきます。
1:48:55	カイダです。

1:48:57	そうするとマキタプランジしているところにあるところで見つかった断層で、
1:49:03	日系って名前をつけていて、
1:49:07	そこその辺りも総合して 1K の範囲を
1:49:12	限定してるんですか。
1:49:16	今の話だと。
1:49:19	ボーリングで確認したところだけは今表現してあるという、そういったお話でしょうか。
1:49:29	モリモトです。ちょっと繰り返しになりますけれども、107 ページのずっとへのあくまでボーリングで見たもの。
1:49:37	等の対応関係を示しただけなので、特に
1:49:41	北側にどこまで続くんだという話をしたいわけではない。
1:49:45	図です。
1:49:50	はい、わかりました特にそこら辺のどこまで続くかっていう
1:49:54	ものが示しているものではないということで、わかりました。
1:50:10	規制庁のスガヤです。今ちょっとH系の話、広がり話がありましたけど、ちょっと私確認したところ、
1:50:20	2000 年去年すかね。7 月 3 日の会合資料の補足資料の 83 ページに、
1:50:27	水平方向に 3km 程度っていうふうな記載もあるので、ちょっとあわせて整理していただければと思いますので、これはコメントです。
1:50:36	ちょっと私の方から簡単な事実確認だけちょっとテンポよく位 4. から 5 点ほどちょっとさせてください。
1:50:45	まず、
1:50:46	64 ページ。
1:50:48	なんですけど。
1:50:50	これH断層系の分布図が書いてあって、これ書いてあります。
1:50:56	左側のほうにありますけれども、敷地の境界をですねちょっと入れておいていただくとありがたいかなと思います。そういった
1:51:06	図がですね、73 ページと 94 ページにもありまして、全部が全部じゃないんですけど、要所要所でやっぱりこういう出てきたときには敷地境界入れておいていただきたいと思います。これがまず 1 点目、次。
1:51:22	174 ページ。
1:51:28	これ黄色い箱書きがあるんですけど、ちょっと文章の繋がりがちょっとよくわからないのでこれはちょっとわかるようにちゃんと書いてください。
1:51:39	何か述語の部分とその前の部分がちょっと対応がよくわかりません。
1:51:43	次、

1:51:46	212 ページ。
1:51:49	地下構造調査結果っていうのが載っていて、
1:51:52	上の箱書きにポツが四つあります。
1:51:56	で、一番下のポツ、
1:51:59	海底面付近の反射面は深部の反射面に耐水相対的により北側括弧陸側へ傾斜する傾向が見られるって書いてあるんですけど、これは具体的にどこら辺のことを言ってるのかっていうのをちょっと教えていただきたいんですけど。
1:52:23	中部電力イマイです。こちらにつきましては先ほど出ましたけど、約 23 ページの例、具体的に書いております。
1:52:32	深部と浅部例、傾斜が異なるというところをどう示しております
1:52:38	約 12 ページはちょっとそこまでは資料には書いていませんが、この横滑りっていうことは、そういったことを言っているものでございます。以上です。
1:52:51	規制庁スガヤですけども、ちょっとごめんなさい。
1:52:54	212 ページではわからないということなんですかね。
1:52:59	この箱書きに対応するとしたところはどこかがわかるようにですねちょっと補足で 1000 とか入れさせていただくようにしたいと思います。
1:53:09	同じように約 13 ページも、09B3 測線も同じようなこと書いてますので、そこがわかるようにもう少し丁寧に記載したいと思います。以上です。
1:53:20	はい、わかりました。じゃあ次、
1:53:24	245 ページ。
1:53:26	なんですけれども、
1:53:28	H断層系の深部への連続性についてっていうことで、一番下に水色の箱書きがありますんで、黒い矢羽があって、これらのことからH断層系は浅部と同程度以上の規模で深部に連続する、していくものではないと考えられるって書いてあって、
1:53:45	ここの浅部と同程度以上の規模でっていうのは、これ具体的にどういうことを言ってらっしゃるんでしょうか。
1:53:56	具体的に何をさせているんでしょうかっていうことに関しては、
1:54:01	はいモリモトです。まず規模、落差ええと表層付近などに 10m程度あるのが、新聞だとなくなっているというところと、
1:54:10	上の箱書きの二つ目の箱書きの 3 分とこに書いてますけれども、表層付近で認められてるものと性状が違うと。
1:54:25	変形幅として出ているその断層幅っていうのは異なるというところをもって規模と言っています。

1:54:35	規制庁のスガヤです。今の落差っていうのとあと3-F正常っていうこともおっしゃってますけど正常だと規模ではなくて、何か製造なんですよねだからそこがわかるようにちょっと書いといてください。
1:54:50	はい、承知しますと、あと、
1:54:54	286 ページ。
1:54:58	H断層各断層の再活動の有無のまとめっていうのがあって表が書いてあります。これ多分誤記だと思うんですけど、下の表の地形調査のところにはアルファベットがDって書いてあるんですけど多分Bじゃないかなと思います。これちょっと確認しといてください。
1:55:16	あと最後、
1:55:18	最後のページから2枚目、383ページなんですけれども、
1:55:24	まとめのページになってますけれども、一番右上の方。
1:55:28	敷地周辺ごく近傍の調査結果のところでは箱書きが二つ書いてありますので一番上の段知見周辺の広域応力場っていうのが書いてあって、
1:55:41	東西圧縮場である南北走向の正断層。
1:55:45	であるH断層系の形成活動に寄与する応力と調和的でないってなってますけど、H断層決定。
1:55:53	EW系の正断層だと思ったんですけど、これは、
1:55:57	どういったあれからこういう南北走向の正断層になってるんですけど、こういう記載どっかの他にあるんでしょうか。ちょっとそれだけ事実確認お願いします。
1:56:11	モリモトですねところすみません5Gでございまして当然圧縮は
1:56:16	ほんでエザキっていうのは、東西走向の正断層のでちょっとすみませんこれ南北東西
1:56:24	あまりです。
1:56:28	規制庁スガヤですはいわかりましたありがとうございます。
1:57:06	サグチですけどちょっと細かいところで言ってんだっけ。
1:57:10	確認をさせていただきたいんですけど。
1:57:15	各断層の特徴のところ、特に性状のところなんですけど。
1:57:20	H2断層、
1:57:23	について、
1:57:25	すみませんなんかページがすぐ出てこないんですけど。
1:57:30	一部、
1:57:33	例外みたいな書き方を
1:57:36	されてたと思うんですけど。

1:57:39	これって何が違うんですか。
1:57:42	計
1:57:47	はい、モリモトですおっしゃっているのはですね。
1:57:53	172 ページ。
1:57:59	に一覧表があつてですね。
1:58:07	これ薄片の観察結果を表でまとめたもので、これが、
1:58:12	Traitsでいうと、右から、
1:58:17	4 番目だろう。
1:58:22	三番目と4番目の列、要は薄片で見たときに流動的な変形構造が何かしらあるよという、
1:58:33	ところが、ここで、
1:58:35	書いてるんですけどもH断層が成しますと、
1:58:39	ごめんなさい、1次ですね、時にだけなしなしで他の断層は何かしら見えてるんだというものでございますので、ちょっとそこら辺の何でこれだけ一緒という中でないんだという考え方を書いてるのが、
1:59:01	ちょっと数ヶ所の海底6ヶ所はあつた。
1:59:04	あるかと思えますけど。
1:59:10	272 ページ。
1:59:14	に各断層の薄片写真。
1:59:16	ざっと並べてですね全部一緒だということを言ってるんですがこれの米印のところを書いてます。
1:59:24	前位置に断層だけですね、この流動的な変形構造がこの薄片見た中ではないんですけども、あくまで限られた範囲薄片で見えます。
1:59:35	あと他の性状イソダ成長を全部他断層と類似もしていることを考えるとですね、観察視野が狭く限られてるのでたまたまこの範囲内で見られてないだけだという考え方だけここで整理させていただいております。
1:59:54	はい、サグチです。
1:59:57	いや、結局、露頭ではそういうのは見られていて、
2:00:02	ということは、露頭で見られている要はブロックへんとか薄片をつくる場所があまりよくなかったっていうそういうそういうことではないんですかね。
2:00:13	この際、そういうふうに考えています。
2:00:16	はい、わかりました。ありがとうございます。あとですね175 ページにも、
2:00:20	これ、あくまでEPMAの分析なんですけど、ここからスプリット三つ目のポツとか、あと下の矢印の下から二つ目で、一部を除いて漸移的に変化をしております。

	あるんですけど、この一部を除いての一部っていうのはどういう部分のことをさ れてます。
2:00:47	モリモトSAと。
2:00:52	例えばですね、
2:00:58	176 ページの 13 断層、
2:01:03	なんか見ていただくと、これ知りカーの元素分布になりますが、
2:01:10	裁量物質としているところの範囲に色っぽくなってますけど、まずその隣が、
2:01:17	母岩の部分です。
2:01:21	枠内に協会、ここでっていうのを書いてますが、ずっとチェックとですね
2:01:27	これと青から赤に色が変わってるようなところもあれば、だらだらと変わってる ようなところもあってというその協会が全部が全部だらだらと全適に変わってる わけではないということ。
2:01:42	この一部を除いているということでおります。
2:01:46	はいサグチわかりましたのではこの色が急激に青から、赤に球菌変わってる ようなところをこの後の一部と言われているということで、
2:01:56	よろしいですね。はい。他の幻想でも同様ですのでそれで結構です。はい、 わかりました。ありがとうございます。
2:02:21	規制庁のスガヤです。それではちょっと最後にですね、別の観点水事実確認 させていただきたいんですけども、
2:02:29	えーとですね、先月 2 月 9 日の日に
2:02:32	中日新聞のほうにですねH断層系のことが記事になってるんですけども、ま ずこの件御社のほうで御認識されているかどうかということをちょっと確認させ ていただきたいんですけども、
2:02:48	中部電力アマノですはい認識をさせていただきます。
2:02:56	はい、ありがとうございます。
2:02:59	納期に関しては何かこう、
2:03:03	ちょっと私が今日のヒアリング資料を見る限りはそういった新聞の記事になっ ているような場所の情報と、
2:03:11	というかそういう露頭のことっていうのは書いてないとは思いますがけれどもそこ もちょっと事実確認だけさせてください。
2:03:19	はい、随分電力アマノですねと。
2:03:21	記事の内容を確認しております中身について精査を進めているところなので、 適切に御説明できるような対応を考えたいと思います。

2:03:41	はい、規制庁スガヤですはい状況わかりました。そうしますと、今御社の中で精査をされていて、及ぼ御説明いただけるという、そういう理解でよろしいでしょうか。
2:03:56	はい、次のアマノです。そのように考えてございます。
2:04:03	はい。規制庁スガヤですはいわかりましたありがとうございます。
2:05:08	規制庁のスガヤですけれども、今日のヒアリングのやりとりの中で御社のほうで直すという。
2:05:15	いうことございましたので、そういった所反映していただいて来週の早いうちに、確認させていただければと思うんですけれども、
2:05:29	はい中部電力アマノでございますのでは来週早々にでも御説明できるように対応させていただきたいと思います。
2:05:40	はい。規制庁スガヤです。はい、わかりました。ではよろしく申し上げます。
2:05:46	ではこれで
2:05:47	今日のヒアリングのほうを終わりたいと思います。ありがとうございました。
2:05:52	ありがとうございました。